

平成24年度東京都高等学校陸上競技対校選手権大会のみどころ（女子編）

今年のインターハイでは、東京都の女子は入賞が1種目だけと低迷した。しかし、関東新人大会では8都県中で最も多い優勝・入賞を果たし、新潟インターハイでの活躍が期待できる。特に短距離には有望選手が多いので風などのコンディション次第では「新記録コール」が続出することだろう。

・短距離

今年的女子スプリント陣は全国トップクラスのハイレベルである。中でも実力的には藤森 安奈（東京3）が100mも200mも一枚上手であろう。すでに100mでは東京選手権で11”90をマークしており、200mでも静岡国際で24”54として全国大会でも優勝候補の一人としてリストアップされている。藤森と競うのは杉山 奈詔（八王子3）と利藤 野乃花（白梅学園2）であろう。両者とも追い風参考ながら11秒台で走っており、200mでもそのスピードは落ちないだけに藤森も気が抜けないであろう。

また、関東新人100m3・4位の高森 真帆・鈴木 夢桜の東京2年生コンビ、柏木 真愛（都野津田3）、林 小百合（八王子2）、寺田 梨紗（城西大2）の存在も侮れない。

いずれにせよ、100m11秒台、200m24秒台のスプリンター達の颯爽とトラックを駆け抜ける、美しく素晴らしい走りをお見逃しなく。

400mでは、走幅跳からこの種目に移行してきた利藤 野乃花（白梅学園2）が支部予選でいきなり55秒台の記録で走って来た。マイルリレーではインターハイでも好走していただけに、その潜在能力が高い事は周知されているが初レースでのこの記録には驚かされた。全国で決勝進出が十分可能なだけに、これからの試合が楽しみである。昨年新人優勝の安西 この実（白梅学園3）、

尾崎 早苗（八王子2）、及川 夏菜（都駒場3）と昨年インターハイに出場した村本 明日香（戸板女3）ら実力者が多いことからレベルの高い決勝となりそうだ。

・中長距離

800mでは北村 夢（東京2）が支部予選時点ではランキングトップである。実力者のト部 蘭（白梅学園2）が距離を伸ばしこの種目にエントリーしなかったことから俄然混戦となりそうだ。北村と競り合うことが予想されるのは順天の布施 温菜（2年）・倉本 春奈（1年）・市川 舞奈（1年）トリオと鈴木 菜沙（白梅学園1）・松尾 咲子（城西大1）の1・2年生の若い力が躍動しそうだ。しかし、2分15秒台では南関東大会では勝負にならない。是非とも大幅なる自己記録更新を目指してほしい。

1500m・3000mでは谷萩 史歩（八王子2）が優位である。冬場の駅伝でも安定して結果を残しており今季も活躍が期待できる。3000mでは有菌 早優・野澤 可苗・土田 美優の順天トリオも先頭集団を形成し谷萩に揺さぶりをかける事ができれば勝機があるかもしれない。ト部 蘭（白梅学園2）は1500m一本の出場となったがコンディションが整い万全となれば誰もついてはいけないだろう。

・ハードル

100mHでは、武山 詩歩（東京3）が寒い東京選手権で14”42と自己記録を大きく更新し成長がうかがえる。新人大会優勝の佐藤 あゆ子（早稲田実業3）が14台の自己記録から武山と争う展開となるだろう。

また、速水 舞（都駒場）・尾張 吐歩（白梅学園）・柳澤 萌香（都片倉）など優秀な1年生が加入しており、新人大会入賞の倉永 麗（都芦花3）・星 琴絵（都上野3）もうかうかしてはいられないだろう。

400mHには、関東新人2位の伊藤 明子（田

園調布学園2)が不出場しない事から混戦となりそう。自己ベストから新田 真未(東京3)・中澤郁香(東亜学園3)が優位であると思われるが、100mH専門の佐藤 あゆ子がこの種目に挑戦してきた事から上位に迫るだろう。ラストがしっかり走れる者に勝機があるだろう。

・競歩

今年の出場者は10名と新人大会からは増えたが、もっと多くの参加が望まれる。

実力的には吉田 百見(都文京2)が唯一27分台の記録をもって断然優位である。新人優勝の斉藤 あきほ(都上水3)、若杉 遥夏(東京2)が28分台と吉田に続く。会場の多くの声援により参加選手はがんばれます。多くのご声援をお願いします。

・跳躍

走高跳では、昨年インターハイ決勝まで進出した伊藤 明子(田園調布学園2)が優勝候補だろう。昨年1m70をクリアするとともに、各大会でコンスタントに1m65以上をマークしているだけによぼどどことがない限り優勝は揺るがないだろう。伊藤が万全でなければ、昨年インターハイに出場した古家 桃(都五商3)や根岸 志帆(戸板女3)・波多野 優衣(八王子3)・楠 芽衣(東京3)にもチャンスがあるかもしれない。

走幅跳も混戦だ。それは、昨年5m88をマークした利藤 野乃花がスプリント種目に出場するためこの種目に出場しないからだ。しかし、新たな有望選手も現れた。利藤と同じ白梅学園のルーキー水口 怜だ。水口は東京選手権で5m71を跳び高校生の先輩達を制した。中学時代にも5m67の自己ベストを持っていることから実力は折り紙つきだ。水口と優勝を争うなら林 小百合(八王子2)、昨年インターハイに出場した國分 春菜(東京3)や実力がある佐野 恵(都文京3)など5m50以上の力を持つ選手も豊富で楽しみな種目である。

・投擲

昨年の関東新人では東京都の選手たちが投擲競技で活躍した。その一つ、砲丸投では一昨年の全中チャンピオン長沼 瞳(郁文館2)が13mを目標するところまで成長してきた。全国高校合宿で研鑽を積み、投げ込みにも時間をかけ技術にも磨きがかかった。久しぶりにこの種目でインターハイ入賞を狙えそう。長沼を追うのは森田 栞・晴山 江梨花の東京コンビだろう。特に晴山は、支部予選記録では唯一12mを越え長沼を上回っており、昨年は都新人・関東新人と長沼の後塵を拝してきただけに一矢報いたいところだろう。

円盤投では、昨年の関東新人優勝で38m台の記録を持つ武末 優(東京3)が優位であるはずだが、今季はまだ本来の力を発揮できていない。しかし、実力的には一枚上なだけに今大会に合わせてくるだろう。藤森 夏美(都つばさ総合2)・清水 ひとみ(日体桜華2)も力があり有力だ。また、今季力をつけた川島 千穂(都青梅総合3)にも大いにチャンスがある。

やり投げは、唯一40mを超えている水本 有香(明中八王子3)が頭一つ抜け出ている。しかし、今年は35m以上の記録をマークしている選手が10名以上おり「一発」の力を持つ選手も多いので、正直誰が勝つか？わからない。予選通過記録も33mとここ数年で最も高いことから、予選から波乱が起こることも考えられる。大会初日の投擲種目にドラマチックな結末が待っているかもしれない。

ハンマー投げは、男子が13日(日)に大井競技場で単独で行われることとなり、今年に限りオープン種目として男子と同時にされる。女子ハンマー投げはインターハイ種目ではないが国体、日本ユース・ジュニア大会では実施されている。来年の「東京国体」でも行われる種目だけに普及も目的として今回の実施に踏み切った。

出場者の中では、今季44m37と東京都高校記録を更新している石嶋 眞衣(東京3)に国体等での入賞ラインとされる45mを超える事を期待

したい。また、多くの女子選手にハンマー投げに取り組んでもらいたい。

・混成競技

七種競技では、伊藤 明子と新人の澤田 珠里（白梅学園1）が全国レベルの点数を争うことだろう。伊藤は昨年4475点と1年生では全国トップの万能ぶりを発揮した。高跳びとスプリントで大きく加点し、苦手な投擲種目を克服できれば優位だろう。しかし、澤田は中学時代にすでに七種競技を経験しており4200点を超えている。更にやり投げでは40mに迫る所まで来ているだけに大きく加点が期待できる。苦手種目がないだけに800mのゴールまで勝負はわからないだろう。馬場 つぐみ（東京3）が二人に続くと見られる。

・リレー

4×100mリレーは、昨年の男子に続いて東京高校が全国高校記録を目標としている。昨年の関東新人でマークした46“22は高校歴代8位で1・2年生では歴代最高タイムである。今季も全てのレースで46秒台をマークしているだけに都大会から記録更新があるかもしれない。八王子と白梅学園も47秒台の可能性が高く全国出場が視野に入りそうだ。

4×400mリレーでは、昨年インターハイ準決勝まで進出した白梅学園が間違いなく3分50秒を大きく切りそうだ。利藤・安西の両エースを擁し選手層も厚いことから東京都高校記録を更新する可能性も高い。東京・八王子が競り合うと更にその可能性が増すだろう。両校は藤森・杉山のスプリンターが快走すれば白梅学園を脅かすことも考えられ楽しみである。最後の種目で全国レベルの競り合いが見られることは間違いない。